



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 株式会社インターメスティック 上場取引所 東
 コード番号 262A URL https://www.zoff.co.jp/
 代表者（役職名）代表取締役（氏名）上野 博史
 問合せ先責任者（役職名）執行役員CFO（氏名）小松 未来雄（TEL）03(5468)8650
 半期報告書提出予定日 2025年8月8日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	23,970	10.1	3,699	19.9	3,700	25.7	2,527	25.4
2024年12月期中間期	21,774	—	3,085	—	2,944	—	2,016	—

（注）包括利益 2025年12月期中間期 2,514百万円（26.3%） 2024年12月期中間期 1,990百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	82.61	80.31
2024年12月期中間期	94.15	—

（注）1. 当社は、2024年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、2024年12月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

2. 2024年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	32,313	24,342	75.3
2024年12月期	34,842	23,058	66.2

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 24,342百万円 2024年12月期 23,058百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	40.20	40.20
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	42.90	42.90

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,330	10.0	5,514	10.0	5,495	12.6	3,750	6.7	122.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2024年12月31日現在の発行済株式数（自己株式数を除く）を使用しております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細につきましては、添付資料10ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年12月期中間期	30,600,000株	2024年12月期	30,600,000株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	一株	2024年12月期	一株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年12月期中間期	30,600,000株	2024年12月期中間期	21,420,000株

(注) 当社は、2024年4月23日付で普通株式1株につき2,000株の割合で株式分割を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「期末発行済株式数」「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 経営成績等の概況(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における国内経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復がみられました。一方で、米国の通商政策等による不透明感や、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響が、我が国の景気を下押しするリスクとなっております。金融資本市場の変動にも十分注意する必要があります。国内外における経済の先行きは依然として不透明な状態が続いております。

このような経済環境の中、当社グループはビジョンとして“Eye Performance”を掲げ、視力矯正器具に留まらず、メガネをファッションアイテムとして、さらには人間の可能性を拡張するツールとして、新しい価値を提示し、社会や暮らしに必要とされるブランドを目指し、取り組みを進めてまいりました。

商品施策につきましては、金属を一切使用しないオールラバー素材の「Galileo(ガリレオ)」の新作サングラス、ファッション系クリエイター「きりまる」とのコラボレーションアイウェア第2弾、人気セレクトショップ「UNITED ARROWS」との新作サングラスコレクション、EXILE NAOTOが手掛けるブランド「STUDIO SEVEN」とのコラボレーション第2弾「Zoff | STUDIO SEVEN」等、積極的な新商品の展開に取り組んでまいりました。

広告展開につきましては、プロバレーボールプレーヤーの石川祐希選手、石川真佑選手を起用したTVCMを展開いたしました。

店舗展開につきましては、当中間連結会計期間における店舗数は、国内316店舗(すべて子会社である株式会社ゾフが運営)、海外21店舗(すべてフランチャイズ加盟店、香港16店舗、シンガポール5店舗)となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は23,970百万円(前年同期比10.1%増)、営業利益は3,699百万円(前年同期比19.9%増)、経常利益は3,700百万円(前年同期比25.7%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は2,527百万円(前年同期比25.4%増)となりました。

セグメント別業績の概要は、次のとおりです。

〈国内事業〉

国内事業につきましては、ファッション系コラボレーション商品が好調に推移したほか、紫外線で色が変わる調光レンズをはじめとした紫外線対策商品が売上を牽引しました。

店舗展開につきましては、国内店舗数は316店舗(出店11店舗、退店2店舗)となりました。

以上の結果、国内事業の業績は、セグメント売上高は23,673百万円(前年同期比10.1%増)、セグメント営業利益は3,681百万円(前年同期比18.6%増)となりました。

〈海外事業〉

海外事業につきましては、香港においては、景気の低迷や為替の影響が見受けられました。

シンガポールにおいては、景気は緩やかな成長が続いているものの減速傾向が見られ、当社グループの業績への影響がありました。

店舗展開につきましては、香港16店舗(出店、退店なし)、シンガポール5店舗(出店、退店なし)の合計21店舗となりました。

以上の結果、海外事業の業績は、セグメント売上高は442百万円(前年同期比7.2%増)、セグメント営業利益は17百万円(前年同期はセグメント損失29百万円)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

資産、負債、純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べ2,528百万円減少し32,313百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ3,514百万円減少し24,434百万円となりました。これは主に、銀行借入の返済や配当金の支払により現金及び預金が3,750百万円減少したことによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ985百万円増加し7,879百万円となりました。これは主に、新規出店や改装に伴い有形固定資産が680百万円及び投資その他の資産の敷金及び保証金が101百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債合計は前連結会計年度末と比べ3,813百万円減少し7,970百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ3,911百万円減少し7,463百万円となりました。これは主に、銀行借入の返済により短期借入金が2,900百万円減少したこと及び賞与引当金が357百万円、未払金が270百万円減少したことによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ98百万円増加し507百万円となりました。これは主に、新規出店や改装に伴いリース債務が79百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産合計は前連結会計年度末と比べ1,284百万円増加し24,342百万円となりました。

これは主に、配当金の支払により1,230百万円減少した一方で、親会社株主に帰属する中間純利益により2,527百万円増加したことによるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ9,250百万円減少し、10,794百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動により得られた資金は1,585百万円(前年同期は2,723百万円の獲得)となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益3,648百万円(前年同期は2,995百万円)、減価償却費474百万円(前年同期は364百万円)及び棚卸資産の増加額449百万円(前年同期は281百万円減少)があった一方で、主な減少要因は、法人税等の支払額1,236百万円(前年同期は409百万円)、売上債権の減少額486百万円(前年同期は87百万円減少)及び未払消費税等の減少額459百万円(前年同期は69百万円増加)があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動に使用した資金は6,646百万円(前年同期は598百万円の使用)となりました。主な減少要因は、定期預金の預入による支出5,500百万円、新規出店や改装のための有形固定資産の取得による支出803百万円(前年同期は493百万円支出)があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動に使用した資金は4,204百万円(前年同期は962百万円の使用)となりました。主な減少要因は、短期借入金の返済による支出2,900百万円、配当金の支払いによる支出1,229百万円(前年同期は896百万円支出)があったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の連結業績予想につきましては、2025年2月14日付「2024年12月期 決算短信」にて公表した内容から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,045	16,294
売掛金	1,047	553
商品	3,799	4,249
預け金	2,587	2,846
その他	468	490
流動資産合計	27,948	24,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,362	1,727
工具、器具及び備品(純額)	983	1,193
リース資産(純額)	366	457
建設仮勘定	13	27
有形固定資産合計	2,726	3,406
無形固定資産		
ソフトウェア	678	712
その他	24	22
無形固定資産合計	702	735
投資その他の資産		
関係会社出資金	27	27
敷金及び保証金	2,256	2,358
繰延税金資産	1,139	1,312
その他	52	50
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	3,464	3,737
固定資産合計	6,893	7,879
資産合計	34,842	32,313

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	888	1,179
短期借入金	2,900	—
リース債務	115	132
未払金	2,831	2,561
未払費用	199	151
未払法人税等	1,345	1,368
賞与引当金	981	624
契約負債	1,240	1,025
預り金	113	82
その他	758	337
流動負債合計	11,374	7,463
固定負債		
リース債務	313	393
預り保証金	81	96
その他	13	17
固定負債合計	409	507
負債合計	11,783	7,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	220	220
資本剰余金	10,240	10,240
利益剰余金	12,479	13,777
株主資本合計	22,939	24,237
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	—	△35
為替換算調整勘定	118	140
その他の包括利益累計額合計	118	105
純資産合計	23,058	24,342
負債純資産合計	34,842	32,313

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	21,774	23,970
売上原価	5,588	5,564
売上総利益	16,186	18,405
販売費及び一般管理費	13,100	14,705
営業利益	3,085	3,699
営業外収益		
受取利息	0	8
その他	3	2
営業外収益合計	3	10
営業外費用		
支払利息	15	9
為替差損	120	0
その他	9	0
営業外費用合計	145	9
経常利益	2,944	3,700
特別利益		
固定資産売却益	12	1
関係会社出資金売却益	17	—
その他	5	—
特別利益合計	35	1
特別損失		
固定資産除却損	24	50
その他	0	2
特別損失合計	24	53
税金等調整前中間純利益	2,955	3,648
法人税、住民税及び事業税	1,036	1,278
法人税等調整額	△97	△157
法人税等合計	938	1,120
中間純利益	2,016	2,527
親会社株主に帰属する中間純利益	2,016	2,527

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益	2,016	2,527
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	—	△35
為替換算調整勘定	△26	21
その他の包括利益合計	△26	△13
中間包括利益	1,990	2,514
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,990	2,514

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,955	3,648
減価償却費	364	474
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△111	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△357
受取利息	△0	△8
支払利息	15	9
固定資産除却損	24	50
敷金及び保証金償却	34	34
関係会社出資金売却益	△17	—
売上債権の増減額(△は増加)	87	486
棚卸資産の増減額(△は増加)	281	△449
預け金の増減額(△は増加)	△129	△259
仕入債務の増減額(△は減少)	△219	299
未払消費税等の増減額(△は減少)	69	△459
未払金の増減額(△は減少)	213	△334
契約負債の増減額(△は減少)	△73	△225
預り金の増減額(△は減少)	△99	△31
その他	△247	△55
小計	3,146	2,824
利息の受取額	0	8
利息の支払額	△14	△9
法人税等の支払額	△409	△1,236
その他	0	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,723	1,585
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△5,500
有形固定資産の取得による支出	△493	△803
有形固定資産の売却による収入	14	5
無形固定資産の取得による支出	△97	△170
連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の売却による収入	34	—
敷金及び保証金の差入による支出	△94	△138
敷金及び保証金の回収による収入	74	12
その他	△37	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△598	△6,646
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△2,900
リース債務の返済による支出	△65	△74
配当金の支払額	△896	△1,229
財務活動によるキャッシュ・フロー	△962	△4,204
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	14
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,153	△9,250
現金及び現金同等物の期首残高	6,268	20,045
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	30	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,451	10,794

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内事業	海外事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,361	413	21,774	—	21,774
セグメント間の内部売上高 又は振替高	140	—	140	△140	—
計	21,502	413	21,915	△140	21,774
セグメント利益又は損失(△)	3,104	△29	3,074	10	3,085

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去及び未実現利益調整額であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	国内事業	海外事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	23,527	442	23,970	—	23,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	145	—	145	△145	—
計	23,673	442	24,116	△145	23,970
セグメント利益	3,681	17	3,699	0	3,699

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。